
現実逃避

やぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現実逃避

【Nコード】

N9611P

【作者名】

やぎ

【あらすじ】

現実逃避をしたい時はアルコールとニコチンが欲しくなる。

肉体に悪いものは時折精神には良いとはよく言ったものだ。タバコと酒。1000円以内で出来るお手軽な現実逃避。現実に向面している問題をぼかしてくれる。見ないでいさせてくれる。思考を鈍らせて、精神を癒してくれる。そこで安らぎを得られる。そう思い込んでいた。

今日もそうだ。自宅で気心が知れた友人との現実逃避。精神を癒す行為。何かがあったから集まったのだろうが、何かあったのか忘れた。確か振られたか、ゼミの人間関係かバイトのことだった気がする。

タバコに火をつけて肺に入れる。白い煙を蛍光灯に向けて吐き出す。煙はゆらゆらと漂って空気の中に溶けていく。手元にあった缶ビールを飲み干す。相変わらずビールもタバコも苦い。苦くて苦くて仕方ないが、逃避の為の物だと考えると我慢出来る。

「流石に飲みすぎで吸いすぎだ。辞めろ」

友人が俺の腕を掴み、たしなめる。確かに彼の言う通り空き缶が部屋の中に散乱している。度数の強いウォッカも空き瓶と化している。タバコも既に何箱かは空箱となっている。

「うるせえ」

彼の手を振り払いお酒へと手を伸ばす。もうぬるくなったビールを胃のなかに流し込む。一気に体の底から熱くなるのが分かる。

「……酒そんなに強くないだろ。何かあったんだ？」

「……」

アルコールを接種する手が止まる。そしてゆっくりと余ったのが溢れないように缶を下ろす。自分でも分かっている。こんなことをしても何も解決しないのは。

だが解決しようにも、何に悩んでいるのか分からない。何が問題かと問われると即座に返事は出来ない。色々と重なって訳が分から

なくなっている。こっちの糸を引っ張れば、キツく締まる。あつちの糸を引っ張れば緩くなるが、違う箇所がキツくなる。そんな感じで物事が絡まっている。

「……なあ、言えない気持ちもわかるが、言わなかったら俺が来た意味ないだろ？」

「……分かってる。だけどさ」

「とつと言えよ。辛いのはお前だけじゃねえーんだよ!!」

辛くて悲しいのは俺だけじゃない。そんな事は分かっている。皆が皆、何かしらあるのは。全世界に対して、自分だけが悲劇のヒーローやヒロインであるかのように演じることなんかしない。だけど。

「だけどよお……せめて、この狭い世界では悲劇のヒーローでいさせてくれよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9611p/>

現実逃避

2011年1月8日21時34分発行